

分詞構文を構成する ~ing の知られざる背景

— 現在分詞と動名詞の混在する世界 —

酒井 典久

はじめに

研究社の『ルミナス英和辞典』の because of のところに、次のような例文が載っている。(訳もこの辞典からのものである。)

I couldn't attend the party because of my wife('s) being ill.

(妻が病気だったので、パーティーには出席できなかった。)

確認しておきたいのは、この例文の being である。この being は、次のような書きかえで生じたものと考えることができる。

... because my wife was ill.

... because of my wife being ill.

動名詞

したがって、my wife being ill は〈動名詞の意味上の主語 + being ...〉ということになり、being が動名詞であることは言うまでもない。

続いて検討したいのは、次の例文の being である。

It being Monday, the shop was closed.

(月曜だったので、その店は閉まっていた。)

仮に、この being が現在分詞なのか動名詞なのかと尋ねられたなら、ほとんどの方が、この文の前半部分が分詞構文であることを理由に、この being は現在分詞であるとお答えになるのではないだろうか。

しかし、もしこの being が次のような書きかえで生じたと仮定したら、いかがであろうか。

Because it was Monday, ...

Because of it being Monday, ...

↓ 動名詞

簡素化 It being Monday, ...

?

(月曜だったので…)

本稿では、この being は動名詞であるという立場をとる。このように、分詞構文を構成する ~ing が動名詞であるととらえることにより、分詞構文に関するいくつかの疑問に説明がつくのである。

筆者は英語発達史を研究しているが、ときとして驚きの声をあげることがある。なぜなら、英語をさかのぼっていくと、現在の文法的な説明と全く正反対の様相にしばしば出くわすからである。

例えば、進行形は、昔は〈be + on ~ing〉または〈be + in ~ing〉で表現されていた。その前置詞が簡素化されて現在の進行形ができた(1500年頃)。

He is in studying.

|| ||

中 勉強

He is studying.

現在では「進行形と言えば現在分詞」ということになっているが、もともとは動名詞に由来することがわかる。実のところ、同じようなことが分詞構文の ~ing についても言えるのである。

1. 分詞構文のルーツ

次の2つの例文をご覧ください。

① She spent an hour in playing tennis.

② She spent an hour playing tennis.

上の②の playing tennis 「テニスをしながら」が分詞構文であるとしても、①と並べることにより、playing はもともと動名詞に由来することがわかる。しかも、playing tennis を「テニスをしながら」ではなく、「テニスをして」というように動名詞的に訳すことさえあるのではない。

さらに、分詞構文の背景に迫るべく、そのルーツをさかのぼってみた。筆者の調べたところでは、英語の分詞構文は、フランス語の〈前置詞＋動名詞(en＋～antで英語のin＋～ingに相当)〉に由来する。その前置詞を省略するとフランス語の分詞構文ということになり、「～しながら」「～して」「～なので」「～することによって」「～にもかかわらず」などの意味を表す。フランス語の口語では、前置詞を省略しないで〈前置詞＋動名詞〉のまま使われることも多い。

なお、フランス語でも英語でも現在分詞語尾と動名詞語尾が共通であるため(さかのぼると異なっていたが)、〈前置詞＋動名詞〉のうちの前置詞が省略または簡素化された形は、たまたま“分詞構文”と呼ばれることになってしまったのであるが、もともとは動名詞に由来するのである。

また、現在ではいくつかの意味が〈(en)＋～ant〉で表されるが、昔のフランス語では、「～なので(理由)」とか「～によると(手段)」とか「～にもかかわらず(譲歩)」などの意味を表す前置詞そのものが使われていた。それらの前置詞が〈en＋～ant〉に集約されてしまったのである。

フランス語で起こったことを、英語を使っておおまかに図示してみたい。

in ~ing
(～しているとき)

in ~ing
(～するとき)

after ~ing
(～して)

by ~ing
(～すると)

in spite of ~ing
(～にもかかわらず)

because of ~ing
(～なので)

→ in ~ing → ~ing

分詞構文を構成する～ing は、もともとはそれぞれの意味の〈前置詞(句)＋動名詞〉であったが、それらがいったん〈in＋～ing〉に集約され、さらにはinが簡素化されて～ingだけになった。が、もともとの意味は～ingに受け継がれていった。そして、この単独の～ingを目にした当時の文法家がこれをたまたま“分詞構文”と呼んでしまった、というのが筆者の見解である。

以上のような歴史的背景をふまえて分詞構文を見つめ直すと、うまく説明がつくことがたくさんある。

2. 分詞構文に関する疑問が解決

「理由」を表す分詞構文の場合、現在の高校生用の参考書には次のような書きかえがよく載っている。

Since she did not know what to say, she kept silent.

= Not knowing what to say, she kept silent.

(何と言っていいかわからなかったの、彼女は黙っていた。)

上の Not knowing ～ は分詞構文なので、knowing は分詞、すなわち現在分詞ということになる。生徒は現在分詞と言われれば進行形に用いてみたくなるのは当然であろう。しかし、心理的状态を表す know は進行形にならない動詞である。上の knowing は現在分詞とされているのに、Since she was not knowing...のように書きかえないのはなぜだろうか。

もうおわかりかと思う。上の knowing はもともとは動名詞に由来するために、進行形とは結びつかないのである。次のように考えてはどうか。(3つの文のうち、真ん中の文はざこちないが、説明のためにあえて書き起こした。)

Because she did not know what to say, ...

Because of not knowing what to say, ...

↓ 動名詞

簡素化 Not knowing what to say, ...

もう1つの例として、次の独立分詞構文の文をご覧いただきたい。

Frankly speaking, I cannot afford to buy that dress.

(率直に言って、その洋服を買う余裕はないわ。)

この speaking も進行形と関係がありそうな印象を受けるが、もともと動名詞に由来するため、進行形とは結びつかない。次のように考えてはどうか。

By frankly speaking, ...

↓ 動名詞

Frankly speaking, ...

(率直に話すことによると → 率直に言うこと)

実のところ、上の speaking は「～することによって(手段)」という用法の〈前置詞+動名詞〉に由来する。「率直に言うこと」であって「率直に言っていると」とならないのには、このような背景が存在するのである。

結局、分詞構文の用法の中で進行形と直接結びつくのは、「～しながら、～していて」という付帯状況の意味を表す分詞構文だけなのである。残りの「～なので」とか「～すると」などの意味の分詞構文は、進行形とは結びつかない。したがって、歴史的背景からすると、分詞構文は「分詞・動名詞構文」ということになる。

3. 「動名詞構文」というとらえ方のすすめ

平成5年の大学入試センター試験に次のような文法問題が出題された。

() children the way she does, Sue should become a teacher.

① Like ② Liked ③ Liking ④ To like

答えは言うまでもなく③で、文意は「スーはそんなふう子どもが好きなから、先生になってはどうか。」である。そして、当時の問題集などの解説は、おそらく「この文の前半は『理由』を表す分詞構文であるため、～ing とする」といったようなも

のであったらう。

しかし、上の Liking が分詞、すなわち現在分詞であると説明されると、動詞 like と進行形との関連が示唆されてしまう。

このような文は、思い切って「動名詞構文」ととらえてはどうか。because of liking ～はぎこちないので、せめて for ～ing 「～なので」を用いて「動名詞構文」を導いてみたい。

↓ Because she likes children the way she does, Sue should become a teacher.

↓ For liking children the way she does, Sue should become a teacher.

動名詞

Liking children the way she does, Sue should become a teacher.

このように、上の Liking を現在分詞というよりも動名詞ととらえることで、進行形との関連を断ち切ることができるのではないかな。

もう1つご注目いただきたい点がある。それは、Liking children the way she does の中の does である。もし Liking が本質的に現在分詞なら、先ほどの the way she does は the way she is になってしかるべきである。しかし、the way she is ではなく、the way she does となっている。

Liking children the way she does の中の does が遠い歴史の向こうから、「この Liking は現在分詞というより動名詞ですよ」と言わんばかりに、現代の私たちに語りかけているような気がしてならない。

おわりに

分詞構文には以上のような歴史的背景が存在することを知っていただけたなら幸いである。また、具体的な展開例や詳細については、次の参考文献をひもといていただければ光栄に思う。

参考文献

酒井典久(2005)『英語のしくみが見える英文法』文芸社

(新潟県立長岡高等学校教諭)